

令和3年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和4年3月11日

学) 清瀬学園 きよせ幼稚園

1. 本園の教育目標

強く＝健康でたくましい心と身体の子＝最後までやりぬく体力・気力＝忍耐力

正しく＝正しく話し、正しく行動できる子＝人と上手にコミュニケーションをとる＝社会性

美しく＝おもいやりのある美しい心の子＝気持ちをうまくコントロールする＝感情コントロール

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、感染症対策を徹底し、切れ目のない保育を提供することを心掛ける

保育の可視化をすすめ、園の教育・運営に対して、ご家庭の理解を得る。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	4年保育の開始	A	今年度より4年保育としてプレスクールに毎日登園するひよこ組を開始した。連携施設ちやいんど保育園のノウハウを基に、子どもたちを一人の人格者として受け止め、子どもたちが自己肯定感を持ち、安心して幼稚園の生活が送れるように見守る保育の実践を行った。まだ1年目ということではあるが、ちやいんど保育園との関係により、新しい保育をスタートすることが出来た。今後とも内容の充実を図りたい。
2	保育ドキュメンテーションの導入	B	これまで、どちらかという閉鎖的であった保育の可視化することを目的として導入した。基本的にクラス便りにて運用しているが、画像や動画を挿入することが出来ることから、子どもたちの自然な幼稚園での姿をご家庭と共有することが出来ていると考える。園内では、事故・怪我の状況、反省、今後の取り組みについて、職員の情報共有として利用を開始した。
3	コロナ禍での行事の企画及び運営	C	8月の大きな波により、運動会の企画については、最悪な状況を想定しながら進めたが、状況の改善のスピードが速く、感染対策レベルと当日のコロナの状況が合っていなかった。より柔軟に対応すべきであった。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	3つの評価項目について重点的に取り組んだ結果、従来のきよせ幼稚園から少しずつ変化を得ることが出来た。4年保育のスタートにより、保育の中に、より養護、自己肯定感の意識が生まれ、保育ドキュメンテーションの導入により、より保育の可視化が進んだ。コロナ禍の行事の企画及び運営については、既存概念を見直し、状況に合わせて柔軟に対応するにはどのように考えを変え、実践したらよいか、経験することが出来た。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	保育カリキュラムの見直し	令和3年度より4年保育（2歳児毎日プレコース及び満3歳児入園）をスタートし、卒園までのゆとりを持ったカリキュラムの構成に取り組むことがスタートした。2年目となる令和4年度は、この方針の継続及び、年少のカリキュラムの見直しを行い、更に令和5年度以降につなげていきたい。全体としても、来年度はより、子どもの主体性を尊重した保育への取り組みを行っていく方針である。
2	キットフル教材の活用	キットフル教材の導入により、より子どもたちが成功体験を得る活動を増やしていきたい。そのために、保育内容の精査に取り組む必要が出てくる。また、キットの活動をより深度化させるための、課外教室の導入も進めていきたいと考える。 きっただけでなく、園庭や教育菜園、園外保育等、遊びを中心とした知的好奇心が育まれる活動を、子どもたちの遊びの時間の保障をしながら行っていきたい。
3	安全管理	全国的に不審者の侵入事件や、遊具での事故の報道があった。当園としても子どもたちの安全管理の徹底を図っていく。
4	個人記録	今年度までは、子どもの成長の姿の文書での情報共有として、月毎のシール帳と学期末のお知らせ表にてやりとりを行ってきた。 来年度については、おうちえん「ポートフォリオ（個人記録）」の中で、写真や動画を含めた内容でのやりとりへアップデートしたい。

6. 学校関係者評価委員会の評価

令和4年3月11日 評議委員会

コロナ禍が続く中で令和3年度の私立幼稚園の運営は難しいものであったと推察される。

行事については、最悪の状況を想定することは大事だが、柔軟性に欠けた部分があったと感じる。

この経験を次年度に活かしてもらうことを期待する。

保育ドキュメンテーションによる保育の可視化は、保護者からも取り組みに対して評価の声を頂く事もあり、ある程度効果があったと感じる。来年度は更なる内容の充実を期待したい。

4年保育ひよこ組に関しては、組織的にも意識的にも良い変化を生んでいる。

計画的に園全体のカリキュラムの見直しを図り、未来を生きる子どもたちへよりよい教育環境の提供が行われていくよう期待したい。